

# 中国60年代と世界

第2号

2015-05-28

発行人 〈中国60年代と世界〉研究会  
編集人 文革50周年再検討会編集グループ

第1回研究会報告(田中芳秀、森瑞枝、朝浩之)……(1) / (第2回研究会予稿) 習近平と文革  
現代に落とす文化大革命の影 矢吹晋……(3) / フランス討論会報告(下) 土屋昌明……(15)

## 第1回研究会報告

### 発会の趣旨を確認し、若者の政治離れ組織嫌いについて論議

3月26日、第1回研究会がもたれた。冒頭、幹事から、世界に影響を与えた文化大革命からちょうど半世紀の来年、記念イベント開催へ向けて、たがいの勉強を深め、議論を積み重ねるべく研究会を発足させようとの提案(第1号「発会の趣旨」参照)が出され、討議の後、確認した。続いて、研究会の第1回として、土屋昌明から「「下放」をどう研究するか」との報告がされた。

配布資料：

谷川雁「沈黙の夜を解くもの」『工作者宣言』潮出版社、1977

大野旭(楊海英)「広闊天地へ飛ばされた知識青年たち」『ユーラシアと日本：交流と表象の現状と課題：報告書』国立民族学博物館、2006

幹事からの発会提議の動機と問題意識の背景には、古来、政治から社会、思想、文化に至るまで多くを中国の影響にあった日本において、文化大革命以後、すべて吹っ飛んでしまい、中国研究が失速低迷してしまった現状への危機意識がある。戦争責任は不問にされ、文革については語られない。若者は大衆運動を「人に迷惑をかけるもの」と嫌悪感を示すようになった。中国共産党までが文革を否定したこともある。

こうした現状への抵抗として、逆から考え、個人の歴史に目を向け、社会や文化、風俗でどのようなかわりと変化があったのか、研究活動をやり、ドキュメンタリーを紹介していきたい(第1号「発会の趣旨／今後の予定について」参照)。

討議では、もはや当時の議論自体が知られていな

いと指摘を皮切りに、中国を相対化しえなかった主体が問題、議論を「面倒なこと」とする傾向が問題にされ、歴史を考えることの大切さが改めて強調された。それについても、若者の政治離れ、組織嫌いは深刻である。

闘いつづけている個人に目を向けること、撮ること自体がまた闘いでもある。どうすれば同じ地平に立てるのか、「正史」からこぼれ落ちた日本、中国、フランスの比較研究でもある、等々、活発な議論は二次会にまで及んだ。以下が、参加者のコメントである。(敬称略、文責・前田)

### 記録の鏡を通して現在を考える

田中芳秀

文化大革命を映像と活字で、かつ、その一部しか知らないわたしが、どのように本研究会を、文革50周年を経験するか。第1回研究会、幹事の土屋さんから述べられた「発会の趣旨」と報告(「「下放」をどう研究するか」)は、記憶ではなく、記録(ドキュメンタリー映画／映像)の重要性。ひとりひとりの歴史の再認識。また、現在の中国研究の閉塞的状況(非論争的)などが指摘され、中国の60年代前後という時代が、世界の、日本の今日的な鏡として捉えられる、と。今が映る。また報告では、谷川雁「沈黙の夜を解くもの」(1959年執筆)を参考引用した。特に「一九五九年の日本に必要なのは危機と高揚を同時に握りしめる精神の領域の人民公社なのだ」という箇所が、過程・方法論として重要であるとの指

摘もあった。わたしは、前述文に続く次の文も記録しておきたい。「総合よりも分析を優位に置く民主勢力のこれまでの悪癖」。日本の戦後民主主義のツケがまわってきた2010年代を批評することは、わたしたちの課題であるだろう。「国家と国民の激しいぶつかり合いが必要」との発言もあった。この場はオープンキョウではない。沈黙ではなく議論。研究会で、とことんやり、外に向けて運動を興したい。

## 中国60年代の問いを自らの問題として

森瑞枝

この研究会に参加して、とりわけ「星火」をめぐる議論から、自分が反右派闘争から文革に及ぶ、中国60年代に関心をもち、研究している所以をあらためて自覚できた。それは中国60年代の「星星之火」が、「人間性」の問題を端的に問いかけているからであり、彼らが確かに捉えた光が、私にも及んでいると思える。

譚蟬雪は彼らが林昭と繋がった時のことを、向成鑑は思うままに書き発言した自分を生き活きと語る。それ以上に私をとらえたのは、たとえば向成鑑の傍らで苗慶久が「妥協」した自分を、王新民はノリで運動に共鳴したことを、生き活きと語っていたことだ。そこに負い目や卑屈さの影はない。それぞれが自分のやれる事はした、それを良しとする姿に、何よりも啓発されるし、励まされる。そこで何があったのか、どう生きられたのかを「求索」し、「火」を以て糧としよう。

## 中国への想いは文化大革命から始まった

朝浩之

本プロジェクトに参加するにあたって、私にとっての「中国、との関わりを語っておきたい。一つは大学に入学して党派色の薄い社会科学系サークルを探して行き当たったのが中国研究会だったこと。もう一つは大学を中退して中国語学校に入って、同学の社員の紹介により中国書の輸入と中国関連書の出版を業としていた会社の社員となり、以来約四〇年、

出版業界で、前半は中国書の販売、後半は中国関連書の出版を通して中国に関わり続けてきたこと。

振り返ってみると、「中国、への想いが揺らいだときは、米中国交正常化、四人組逮捕、六四事件と、3回あったように思う。そのときどき、「中国、への思いが回帰していく先は中国研究会一年目の年間研究テーマだった「文化大革命」(文革)だった。中国では改革開放時代の到来とともに文革は否定され、文革までの歴史は都合よく解釈し直された。文革中の凄まじい暴力の実態が明るみにされると、日本における文革支持者たちの多くは中国の解釈を追認するか、だんまりを決め込んだ。

翻って、今日の嫌中・反中の噴き上がりの状況は、親中国だった人々、とりわけ研究者・言論人たちの、論にたりえない、反中とは言わないまでも嫌中感が作用していることは否めないように思う。当事者ではなく、文革の旗を振った者として、「強大国」となった中国とどう向き合うか。自分にとって文革とは何だったのかを、「歴史決議」に切断されることなく、問い直す機会を与えられたことに緊張の面持ちで一回目の研究会を終えた。

### ———今後の研究会予定———

- 第3回 7月30日(木)、専修大学神田校舎  
「文化大革命は何を変え、何を变えなかったのか」  
報告・前田年昭(本誌編集、神戸芸術工科大学非常勤講師)
- 第4回 9月24日(木)、専修大学神田校舎  
「香港における文革(仮)」  
報告・佐藤賢(明海大学専任講師)

問合せ先：土屋昌明 [tuwu@s01.itscom.net](mailto:tuwu@s01.itscom.net)

(16ページからの続き)

本会議に参加した丁東や呉迪らの著作は大陸以外から出版されており、またインターネット上には夥しい量の言説が流通している。我々は、これらに積極的にコミットするとともに、欧米の研究との相互協力についてもっと考慮すべきだと感じさせられる会議だった。

(つちや・まさあき、専修大学教授)

第2回研究会(2015年5月28日)発表予稿

# 習近平と文革 現代に落とす文化大革命の影

矢吹晋

## I 習近平の下放・文革体験

習近平の経歴<sup>1</sup>は、2012年11月に第18回党大会が開かれ、トップ指導者に選出された際に、注1のように発表された。その後、中国当局公認の書籍<sup>2</sup>で解説されたものを合わせて描くと、以下のごとくである。

——1953年6月生、陝西富平人、1966年に文化大革命が始まった時は、13歳、北京「八一初中」<sup>3</sup>の1年

生であった。1968年「初中3年」(日本の中学3年級)の時、北京25中学という普通校に転校させられ、それから陝西省延川県<sup>4</sup>に下放<sup>5</sup>した。15~16歳であった。1969~1975年、16~22歳を「下放青年、知識青年」として陝西省延川県文安駅公社梁家河大隊の「知識青年、党支部書記」として生活した。1975~1979年(22~26歳)、推薦により、清華大学に合格し、化学工業系基本有機合成を専攻した。

——まだ幼かった習氏は、1962年(9歳)から、中

1 「习近平同志简历」习近平，男，汉族，1953年6月生，陝西富平人，1969年1月参加工作，1974年1月加入中国共产党，清華大学人文社会学院马克思主义理论与思想政治教育专业毕业，在职研究生学历，法学博士学位。现任中央委员会总书记、中央军委委员会主席，中华人民共和国副主席，中华人民共和国中央军事委员会副主席，中央党校校长。1969

1975年 陝西省延川縣文安驛公社梁家河大隊知青、党支部書記。1975

1979年 清華大学化学系基本有机合成专业学习。1979

1982年 国务院办公厅、中央军委办公厅秘书(現役)。1982

1983年 河北省正定县委副书记。1983

1985年 河北省正定县委书记，正定县武装部第一政委、党委第一书记。1985

1988年 福建省厦门市市委常委、副市长。1988

1990年 福建省宁德地委书记，宁德军分区党委第一书记。1990

1993年 福建省福州市委书记、市人大常委会主任，福州军分区党委第一书记。1993

1995年 福建省省委常委，福州市委书记、市人大常委会主任，福州军分区党委第一书记。1995

1996年 福建省委副书记，福州市委书记、市人大常委会主任，福州军分区党委第一书记。1996

1999年 福建省委副书记，福建省高炮预备役师第一政委。1999

2000年 福建省委副书记、代省长，南京军区国防动员委员会副主任，福建省国防动员委员会主任，福建省高炮预备役师第一政委。2000

2002年 福建省委副书记、省长，南京军区国防动员委员会副主任，福建省国防动员委员会主任，福建省高炮预备役师第一政委。(1998

2002年清華大学人文社会学院马克思主义理论与思想政治教育专业在职研究生班学习，获法学博士学位)2002

2002年 浙江省委副书记、代省长，南京军区国防动员委员会副主任，浙江省国防动员委员会主任。2002

2003年 浙江省委书记、代省长，浙江省军区党委第一书记，南京军区国防动员委员会副主任，浙江省国防动员委员会主任。2003

2007年 浙江省委书记、省人大常委会主任，浙江省军区党委第一书记。2007

2007年 上海市委书记，上海警区党委第一书记。2007

2008年 中央政治局常委、中央书记处书记，中央党校校长。2008

2010年 中央政治局常委、中央书记处书记，中华人民共和国副主席，中央党校校长。2010

2012年 中央政治局常委、中央书记处书记，中华人民共和国副主席，中共中央军事委员会副主席，中华人民共和国中央军事委员会副主席，中央党校校长。

2012 - 中央委员会总书记、中央军委委员会主席，中华人民共和国副主席，中华人民共和国中央军事委员会副主席，中央党校校长。第十五届中央候补委员，十六届、十七届、十八届中央委员，十七届中央政治局委员、常委、中央书记处书记，十八届中央政治局委员、常委、中央委员会总书记。第十一届全国人大第一次会议当选为中华人民共和国副主席。十七届五中全会增补为中共中央军事委员会副主席。第十一届全国人大常委会第十七次会议任命为中华人民共和国中央军事委员会副主席。十八届一中全会任中共中央军事委员会主席。

2 習近平『国政運営を語る』北京、外文出版社、2014年、付録「人民大衆はわれわれの力の源泉である」

3 北京市八一学校位于中国北京中关村科技园区核心区，始创于1947年，是由聂荣臻元帅亲手创办的荣臻子弟学校发展而来的一所现代化历史名校。学校校园面积156562平方米，建筑面积189661平方米。目前，学校集小学、初中、高中、国际于一体，共有118个教学班，4200余名学生，教职工422多人，是北京市示范高中校。<http://www.bayims.cn/column-10.html>

4 延川县位于陕西省北部，延安市东北部，距延安市区80千米，地理坐位于东经109°36'20"~110°26'44"，北纬36°37'15"~37°5'55"。全县东西长74.25千米，南北宽51.5千米。东临黄河与山西省永和县隔河相望，北与本省榆林市清涧县接壤，西北与子长县毗邻，西接宝塔区，南靠延长县。总面积1941平方千米，辖14个乡镇，人口19万。是陕西省主要红枣、蚕茧、酸枣仁产区之一。年平均气温10.8℃，年降水量500毫米。交通以公路为主。名胜古迹有乾坤湾、贾桂墓、赫连勃勃墓等。<http://baike.baidu.com/item/%E5%BB%B6%E5%B7%9D%E5%8E%BF?fr=aladdin>

5 延川縣文安驛公社梁家河大隊北京知青名單15：习近平 王翠玉 徐晶 赵华安 雷平生 佟达宁 杨京生 王燕生 戴明 梁万生 慕丰安 慕爱平 齐丽梅 李京鲜 张春富。

国共産党元老のひとりだった父親・習仲勲氏の冤罪事件<sup>6</sup>に巻き込まれ差別された<sup>7</sup>。「文化大革命」中に、吊るし上げられ、飢えを経験し、あちこちをさまよい、拘禁されたことさえあった。1969年の初頭、16歳にも満たなかった習氏は陝西省北部農村の生産隊への下放を自ら志願して、延川県の文安駅人民公社梁家何生産大隊にやって来た。山の崖に掘った洞穴式住居(窑洞)には、特にノミが多く、刺されて全身が水泡だらけになり、オンドルに敷いたアンペラの下に農薬を撒きノミを退治するしかなかった。この数年間、ほとんど休まずに野良仕事をし、石炭を運び、土嚢を積み堰を作り、肥え桶を担ぐなど、どんな仕事もし、どんな苦勞もいとわなかった。

——村人たちは、50キロ、100キロの麦を片方の肩で担いで5キロの山道を何時間も歩く習氏を見て、「苦勞にもつらさにもよく耐えるいい若者だ」と感じた。「力を惜しまず働く」「知識が有り、アイデアに富む」。習氏は次第に農民たちに信用され、中国共産主義青年団と中国共産党に相次いで加入し、生産大隊党支部の書記にも選ばれた。陝北の黄土高原の生活は苦難に満ちていたが、自らを鍛え、才能を発揮する初舞台となった。耕地を増やすため、寒い冬の農閑期に、習氏は村民を率いて土留めのダムを修築したが、率先して裸足で水の中に立って氷に穴を開け、ダムの基盤をきちんと整理した。また、村の鍛冶屋に声を掛け鉄業社を設立し、農機具を自給自足できるようにしたばかりか、付近の村へ売るこ

とで村全体の収入を増やした。

——新聞で四川省ではメタンガスを利用していることを知ると、経験を聞くために駆け付け、村に戻ると、陝北初のメタンガス備蓄池を作り、村民を率いて陝西省初のメタンガス利用村として、村民たちの炊事、照明の困難を解決した。また、村に下放されていた知識青年に分け与えられた白い小麦粉のmantouを村民に譲り、自分はヌカ(糠)などを混ぜてつくった粗末なものを食べていた。習氏は先進的知識青年として、北京から荷台付きのオート三輪車を奨励品として支給された。当時、地元では非常に珍しいものだったが、習氏はこれを手動トラクターや製粉機、もみがら吹き上げ機、吸い上げポンプなどの農機具と取り換え、村人に買ってもらった。学業は中断されたが、習氏はずっと知識を渴望し、本を読み独学を続けた。梁家河村に下放された時、重たい一箱の本を運んできた。昼間は働き、休憩時間に本を読み、羊を放牧する時も、黄土高原の坂の上で本を読んだ。夜になると、暗い灯油の灯りの下で、深夜まで本を読み続けた。村人たちの記憶によると、習氏は食事の時も食べながら「レンガのような厚さの本」を読んでいたそうだ。

——43年前、習氏は知識青年として陝北農村の生産隊に下放され、そこで7年働いたが、最初の「公務」は中国共産党組織体系の「細胞」である生産大隊(行政村)の党支部書記だった。陝西省から北京市へ、河北省から福建省へ、浙江省から上海市へ、

6 小説『劉志丹』事件。劉志丹を題材とした小説『劉志丹』が反党文書だとされた事件。劉志丹は1920年代から活躍した軍人で、長征の先頭に立ち高崗らと共に陝西省北部の陝北ソビエトの確立に尽力。1936年2月21日、毛沢東の「北上抗日」という指示で東征を行い、山西省に入ったところで同地を支配していた国民党の閻錫山軍に敗北し、4月14日に退却の途中に射殺。この一件で彼の故郷である保安県は志丹県と名を変え、追悼大会が盛大に行われた。1954年、中央宣伝部の指示で、小説『劉志丹』が弟劉景范の妻李建彤によって執筆された。その後、習仲勲の助言を得て、1962年までに完成。だが既に失脚していた高崗や1930年代に共産党で極左偏向路線を主導した王明に関わる内容であったことから、陝北地域の党責任者だった賈拓夫は中央宣伝部の審査を仰ぎ、周揚副部長は問題なく出版は可能と結論。出版にこぎつけた。ところが光明日報、工人日報、中国青年報などに連載されると閻紅彦(雲南省委第一書記)が、内容は党中央の評価が必要だと発表に反対し、その報告を受けた康生によって「政治問題であり、処理を求める」と楊尚昆に命じた。62年8月、第8期中央委員会第10回全体会議予備会議で小説『劉志丹』は高崗の名譽を回復し、党を攻撃する文書と指摘、9月24日に開催された第8期10中全会で毛沢東は「小説を書いて反党反人民をすることは、これは一大発明だ」と批判した。これを口実に習仲勲、賈拓夫、劉景范らが反党集団と認定され、習仲勲は党内外の職務からすべて解任された上に下放され、賈拓夫は北京鉄鋼会社の副經理に降格された。1966年に文化大革命が始まると、康生、江青、林彪らは小説『劉志丹』に関わった人間に対して手を伸ばし始める。1967年、人民日報で出版許可を出した周揚を「反革命両面派周揚を評す」と題された文章を発表して党と国家を篡奪する陰謀を進めていたと批判し、拘束した。李建彤は1970年に党から除名され、労働改造処分となるなど、西北反党集団として6万人が被害を受けたとされる。またかつて毛沢東に英雄と評された劉志丹自身もその手からは逃れられず、記念碑が紅衛兵によって破壊された。1978年の第11期3中全会以降冤罪事件の再評価が始まり、翌1979年には「小説劉志丹の名譽回復に関する報告」ですばらしい革命文化作品であり、(中略)高崗の再評価問題など存在しないと評価され、10月には再出版された。しかし、一部古参同志が事実と異なると指摘したため、1986年に習仲勲が調査した結果、「党の歴史的人物の描写は歪曲してはならない」と決定され、胡耀邦の指示で再度発禁となった。http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8F%8D%E5%85%9A%E5%B0%8F%E8%AA%AC%E5%8A%89%E5%BF%97%E4%B8%B9%E4%BA%8B%E4%BB%B6

7 对于习近平当年的知青经历，新华社在十八大后推出的《中共高层新阵容》特稿中描述，由于受父亲习仲勲冤案牵连，习近平1962年起遭到歧视，在“文革”中受过批斗，挨过饿，流过浪，甚至被关押过。1969年初，不满16岁的习近平主动申请到陕北农村插队，来到了延川县文安驿公社梁家河大队。习近平亲述当年在陕西梁家河村插队经历，2013-05-06 来源：大公网 http://news.takungpao.com/mainland/zgzq/2013-05/1590913\_2.html

西部の貧困地区から国家の政治・文化中心地へ、東部の立ち後れた地区から沿海の先進地区へ、その政治経歴は村、県、市（地区）、省（直轄市）と中央の党・政府・軍隊の主要ポストすべてに及んでいる。7年間にわたる農村生活、7年間にわたって共にした苦楽——黄土高原の純朴な村人たちとつらい仕事の苦労を分かち合い、いっしょに食べ、いっしょに住み、いっしょに働いた歳月は、習氏にとって、現地の民衆と深い友情を結んだばかりでなく、何が中国の農村なのか、何が一般大衆の喜怒哀楽なのか、何が中国の基本的な国情なのか、理解するよい機会だった。習氏は人民に対する深い愛、足元の担当地区に対する責任感を習氏の人生の目標の中に深く刻み込んだ。習氏は自分の人生で最も力になってくれたのは「革命の大先輩と陝北のあの村人たち」と率直に話したことがある。16歳足らずで黄土高原に来た当時は、途方に暮れ、いろいろな迷いがあった。22歳でここを離れた時、習氏は揺るぎない人生の目標を持った——「人民のために地道に働く」がそれだった——。

以上の経歴紹介は、習近平が中国共産党のトップ指導者に選ばれた2012年前後に、本人が語った回顧談を中心に当局が「民に親しまれる指導者イメージ」を作るために描かれたものであり、多かれ少なかれ、若干の修飾語が正確さを欠くことは免れないであろう。たとえば「50キロ、100キロの麦を片方の肩で担いで5キロの山道を何時間も歩く習氏」の原文は、「能挑一二百斤麦子走10里山路长时间换肩的习近平」であり、これは「刻苦に耐える若者」（是个吃苦耐劳的好后生）を示す形容句であり、必ずしも、「100キロの麦を片方の肩で担いで5キロの山道を何時間も歩いた」という事実の描写ではあるまい。都会育ちの若者にそのような体力があるとは想定しにくい。

とはいえ、(1) 基本的には事実を踏まえて、(2) そして、「有名歌手彭麗媛の夫」程度にしか認識されていなかった習近平像を浮かび上がらせるために描かれたことは確かとみてよい。さらに (3) より

重要なことだが、父親習仲勳は文革前夜の62年10月の8期10中全会から、反党集団の一味と認定され、國務院副総理の職務を事実上停止されていたので、66年初夏に文革が始まった時期にも、紅衛兵運動に参加して「加害者」になることはなかったはずだ。文革期の若者たちは紅衛兵運動としての「加害者」<sup>8</sup>の立場、その後、下放させられ貧しい農村生活を体験する「被害者」の立場が交錯するために、文革の評価においてアンビバレントな立場に置かれるが、習近平の場合、紅衛兵としての「加害者」体験を欠くことは、注目すべきであろう。

## II. 「プチ毛沢東」としての習近平

### II-1. 習近平記者会見

今から2年半前のこと、2012年11月14日、私は党大会を終えて中国共産党のトップに選ばれたばかりの習近平記者会見をインターネットで凝視していた。数十分の記者会見を聞いているうちに、私は一昔前にタイムスリップした錯覚に陥った。習近平の口から次から次へとナツメロのように毛沢東語録が飛び出したからだ。曰く、大衆路線、曰く、人民のために奉仕する、等々。

私はテレビ画面に釘付けになりながら、習近平とはどんな男か、あれこれ考えた。清華大学を出て、最初にやった仕事は、職業軍人ではなく、文民の立場で初めて国防部長を務めた耿飈国防部長の秘書であった。これはおそらく父親習仲勳が旧知の耿飈に息子を預けたものか。彼が軍事委員会の周辺を知っていることは重要かもしれない。前述の注1の経歴に「中央军委办公厅秘书（現役）」の一句が見える。彼は国防部長耿飈の秘書を務めた後、耿飈が中央軍事委員会弁公庁主任となったときに、その秘書を務めたが、これは軍籍のない者は就任できない重要ポストだ。それゆえ、この時期に習近平は「軍籍」に登録されたわけだ。大学卒業直後の若い時期に彼が軍事委員会の弁公庁という枢要な部門に一時属したことは、のちに軍事委員会の虎退治を断行するうえ

8 極端な場合は、殺人の加害者であった。たとえば土屋昌明「中国の「民間ドキュメンタリー」とはなにか——胡傑監督へのインタビュー」『専修大学社会科学研究所月報』2013年4月号、57～58ページ。

で、一つの重要な要素になったとみてよい。1997年9月の第15回党大会で習近平は中央候補委員に選ばれ、中央幹部としての歩みを始めたが、その印象は強烈であった。得票順からして序列は151名中のビリなのだ。中央委員193名は筆画順に並べるので、得票数は分からない。しかし候補委員は得票順を明らかにしておく必要がある。中央委員に欠員が生じた場合に繰り上げ当選させるためだ。このとき習近平は、辛うじて候補委員に当選はしたものの、序列ビリ。これは何を意味するのか。

ちなみにビリから2番目が鄧小平の長男鄧樸方であり、いま習近平の片腕として虎退治を進めている王岐山はビリから7番目であった。3人の太子党はなぜかくも評判が悪いのか。それはおそらくは3人の「個性や能力のため」ではない。当時は鄧小平の没後まだ半年、「太子党を政治権力の中核に加えるなかれ」という鄧小平ら革命第一世代の良識、自制が働いていた。文革期には実権派子弟は肩身が狭かった。その後名誉回復は行われたが、「文革の遺風」はまだ残り、習近平ら太子党は小さくなっていた。長老陳雲の長男陳元に至っては、習近平より8歳年上だが、習近平より5年遅れて2002年にようやく候補委員になった。そしてその序列はビリから6番目であった。薄一波の息子薄熙来は、1997年には候補委員にさえ選ばれず、2002年に候補委員を飛び越えて直接中央委員に選ばれた。年下の習近平に追い越された薄熙来の敵愾心がやがて身を滅ぼす。いずれにせよ、15回大会(1997年)、16回大会(2002年)当時は、まだ中国共産党が自らの権力乱用を自制する良識が働いていた。この自制心を次第々々に解かれて、ついには誰憚ることなく権力を乱用したのが江沢民と江沢民人脈だ。軍のトップや政法委員会書記が処分される現代とは大違いではないか。私はテレビを見ながら習近平＝「プチ毛沢東」のあだ名をつけた。

## II -2. 習近平の虎退治と権力固め作戦

2015年3月、習近平は名実ともに「プチ毛沢東」

9 たとえば牟伝珩の論評「中南海で“集団指導制”を覆す」香港『争鳴』2015年3月号。

ぶりを発揮する。一連の全人代がらみの報道について「ピラミッド型の権力モデル」と呼ぶ評論も現れた<sup>9</sup>。習近平はどう変身したのか。2012年秋、党大会でトップに就任した直後の記者会見の写真では7名の常務委員の真ん中に並ぶ一人であったが、それから2年を経て、テレビカメラの焦点は、習近平の「標準写真」像にズームインされ、他の6名がとんとん後景に退いた。このイメージの変化を象徴するニュースが1月16日に報じられた。この日、トップセブンからなる中央政治局常務委員会議は終日会議を開いた。

日本の国会に当たる全人代常委会(委員長＝張徳江)、内閣に当たる國務院(総理＝李克強)、参議院に擬せられる全国政協(主席＝俞正声)、最高裁に当たる最高人民法院(院長＝周強)、最高検に当たる最高人民検察院(院長＝曹建明)の五大国家機関における「共産党フラクションの代表」すなわち「党組書記」の参加を求めて、それぞれの代表から当該部門の「活動報告」を行わせた。報告を聞くのは総書記習近平だ。

ここで張徳江、李克強、俞正声はもともと常務委員会のメンバーだから、一見特に問題はなさそうに見える。周強と曹建明とは、ヒラの政治局委員でさえなく、中央委員級にすぎないから、この政治局常務委員級の会議に対しては、呼び出しを受けた際のみ「列席」できる。周強と曹建明とは、召喚を受けて報告した形だ。これがこの会議の性質になる。ここから張徳江、李克強、俞正声ら正規の常務委員もまた「それぞれの分担をもつ常務委員としての出席」というよりは、事実上、周強と曹建明の例のように、習近平の呼び出しを受けて出席した形にならざるをえない。これは巧みに計算された習近平格上げのイメージ作りに見える。

江沢民時代(1992～2002年)、胡錦濤時代(2002～2012年)の常務委員会議は、メンバー9名がそれぞれの担当分野に全責任を負い、他の分野の担当者は、他部門について口出しをする権限が事実上なかった。これは「九龍による治水」などとも呼ばれる分業責任制であった。江沢民や胡錦濤は、自らを除く8名からそれぞれの担当分野の報告や提案を受

ける形で議事が進み、総書記はいわば会議の「単なる司会役」にすぎなかったと評しても言い過ぎではない。

江沢民の場合は、基本的に自らの腹心を配置できたので、思惑通りに処理できたが、問題は胡錦濤のケースだ。胡錦濤時代の人事は江沢民が自らの影響力を極力残すように仕組まれた人事体制のゆえに、胡錦濤カラーを打ち出すことはほとんどできなかった。このような江沢民リモコン体制のもとで、空前の腐敗現象が現れた。

### II-3. トップセブンという枠組み

#### ——周永康子飼いを阻む

2014年7月末に処分された周永康は、政法委員会書記として、警察・検察・裁判等司法部門の全権力を握っていた。ここで胡錦濤は周永康の腐敗問題に気づいたとしても、それに「口出しできない慣例」に縛られていた。これが「江沢民執政10年、院政を含めて20年」の間に次第に劣化を加速した「集団指導制」の内実であった。この制度・慣行という縛りに悩まされてきた胡錦濤は、政法委員会書記の地位を常務委員会レベルからヒラの政治局委員レベルに格下げすることを習近平への「置き土産」とした。すなわち常務委員数を9名から7名に減員して、前任政法委員会書記周永康が「子飼いの代理人」を常務委員会に残す道を塞いだ。これが胡錦濤の習近平への置き土産であった。

### II-4. 王岐山紀律検査委書記の辣腕

さて大会以後に形成された新たなトップセブンの分担体制において、それまでは副総理として国際国内金融を統括していた王岐山に畑違いの紀律検査委員会書記のポストを担当させた。この措置は、その後の経過が明らかに示すように、敏腕王岐山にしか前任者周永康の腐敗問題を処理できないことを的確に把握した上での人事であった（この人事内定を受けて、王岐山自身は、自らの後継者を周小川に決定し、周小川を全国政協委員の副主席の一人に据えた。これによって閣僚級の周小川の定年は65歳から副総理級の67歳に延びた。腐敗摘発は金融面にも波

及するが、周小川に実務レベルの最高意思決定を委ねる措置にほかならない）。新たに紀律検査委員会書記を担当した王岐山は、前任者周永康の直接の後継者が常務委員会にはいないことを奇貨として、十分に辣腕を振ることができた。

### II-5. 徐才厚処分の伏線

#### ——胡錦濤の軍事委員会完全引退

胡錦濤と習近平の「事前の合意」でもう一つ決定的な事柄がある。それは胡錦濤が党大会を機として、軍事委員会の「主席ポスト」を習近平に譲ったことだ。江沢民から胡錦濤への権力引き継ぎの際には、2002年の党大会の2年後の4中全会まで、江沢民が軍事委員会主席のポストにしがみついたので、胡錦濤の軍権掌握は著しく妨害を受けた。この苦い体験に照らして、胡錦濤は習近平に大会直後に主席ポストを譲る決断をしたが、これはたいへんな英断であったことが徐才厚処分の際に明らかになる。

というのは、軍事委員会は2人の副主席と4総部の司令官あるいは部長（総参謀部、総政治部、総装備部、総後勤部）および陸海空軍、ミサイル部隊の司令官等からなり、これらはすべて実働部隊を指揮する「制服組のポスト」である。文民の習近平がただ一人主席として会議を主宰し、軍事委員会主席としての意思決定を行うことができる仕組みだ。これは「主席責任制」と呼ぶ中国流の文民統制メカニズムだ。制服組の司令官たちは、みずからの指揮する実働部隊の責任者としての判断を求められ、意見を述べることはできるが、軍事委員会としての意思決定権は、習近平の一手に残されている。この「主席責任制」に支えられて習近平は、自らの昇格とともに引退した前任副主席徐才厚を共産党から除名する大英断が可能であった。もし、多数決の評議ならば、この処分決断は葬られたであろう。

こうして江沢民の「執政10年、院政10年」期に異常増殖した腐敗問題を果敢に処理することによって、習近平は一挙にトップセブンの「集団指導制」の内実を習近平「個人独裁制」に転化した。いまやあたかも毛沢東のような個人独裁権を掌握し、他の6名のメンバーがすでに従属的地位に転落したこと

を象徴的に示すセレモニーこそが2015年1月16日会議の「報告」スタイルにほかならないと私は解する。これは6名の常務委員は、担当分野について「報告する側」であり、習近平ただ一人がこれを「聞きおく側」の立場に、事実上昇格していることを見せつけるセレモニーなのだ。まさに習近平が「プチ毛沢東」に大化けした瞬間というべきだ。

日本の少なからぬメディアが、習近平の実力について、「共産党史上最も弱い総書記」と軽視しているうちに、本人は大変身した。日本のメディアは、なぜ事態を見誤ったか。取材源が基本的に習近平に敵対する江沢民人脈に限られていたことで致命的弱点をさらけだしたように見える。習近平を見くびり、傀儡化を図る旧勢力が「弱い習近平イメージ」を世論工作のために拡散し、これにひっかかった。これは特派員というニュースの送り手側の問題だ。その背景にあるのは、安倍内閣の中国敵視姿勢であろう。中国敵視・中国脅威・中国封じ込めといった極度に時代後れの戦略に籠絡されて日本世論は、中国問題にほとんど関心を失い、無関心になった。そして「著しく大気の汚染された国、腐敗した肉を売る国」といった類のネガティブ・キャンペーンのみが横行した。これにメディア側自身が幻惑されて、習近平の中国の現実を冷静に観察する意欲と能力を失ったものと私は解している。これは2012年の尖閣国有化以来の大きな潮流だ。こうして習近平の就任以来の中国の新しい動向に、日本世論は目を塞ぐか、あるいはネガティブな側面にしか興味を示さなかったために事態を読み違えたのではないか。

## II -6. 毛沢東の「小組治国」に倣う

習近平が一挙に権力を掌握したのは、腐敗の象徴としての徐才厚と周永康とを処分したことによるが、その具体的な方法を見ると、毛沢東が文革で用いた「文革小組方式」に酷似している。すなわち小組治国である。3中全会（2004年11月）以後、習近平は①中央全面深化改革、②中央国安委、③中央財経、④中央網信等々、11個の「領導小組」を新設して、党政軍、立法、行政、司法、経済、文化等国家的一切の権力を習近平個人の手集中した。

中国は13億の人口からなり、共産党員だけでも8000万人を超える。党とは、いわば「国の中の独立国」であり、党組織自体が極度の官僚主義体制だ。膨大な官僚機構は、どのように機能するか。「習近平の打ち出す新政策」は、ほとんどの場合、官僚機構のルートを通じてねじ曲げられ、各段階の各対策によって、シロはクロに変化してしまう。習近平の指示は、官僚主義と敵対勢力によって、ほとんど正反対のものにねじ曲げられる。こうした官僚機構の各段階で生ずる歪曲を防ぎ、習近平個人の意向を誰の目にも明らかにするためにこそ「小組方式」が必須なのだ。これを新たに設けて、この小組によって伝えられる内容だけが「習近平の肉声」であり、これ以外はすべて「ニセの習近平指示」であることを明示するものが、毛沢東のひそみに習う「小組治国」システムなのだ。習近平がわずか2年で、毛沢東方式を活用して、権力を一手に掌握した手腕は刮目に値する。毛沢東からその作風を深く学んだ太子党・習近平にしかできない芸当と見てよいと思われる。

習近平を突出させる措置は、たとえば2014年国慶節において、李克強が國務院総理として開いた新中国成立65周年慶祝レセプションでも見られた。中国共産党は長らく建国祝賀の会は、周恩来ら歴代の國務院総理が講話を発表する伝統が守られてきた。ところが慣例を破り習近平自身がここで主役を演じた。総理李克強は「主役の地位」から単なる「司会者役」に格下げされた形だ。とはいえ、これをもって「李克強の地位に変化が生じた」と見るのは短絡だ。総理としての李克強の地位、すなわち実務を通じて「党務の習近平を支える伝統的な党政構造」に由来する地位にはいささかの変化もないと見てよい。李克強の地位が下がったのではなく、習近平の地位が格段に強められたのだ。両者はそもそも対等ではない。毛沢東に仕える周恩来の姿を「党高政低」というパターンで見れば分かりやすいであろう。

國務院の主催すべき会議でさえもこのありさまであるから、党の3中全会（2003年11月）、4中全会（2004年10月）等、党レベルの会議において習近平の「領袖としての地位」が格上げされていることはいうま

でもない。たとえば習近平は2014年10月15日に文芸座談会を開き、周小平（著名な若手ブロガー）、花千芳（ネット作家、撫順市作家協会副主席）らに発言の場を与えて周囲を驚かせた。さらに福建省古田で「新古田会議」（10月30日～11月2日）を開き、軍に対する党＝習近平の指導を強調するセレモニーを行った。古田会議は由来毛沢東がゲリラ軍に対する党の指揮を制度としてビルトインした会議として知られている。

## II-7. 習近平語録、その1

習近平はすでに著作集を4冊書いているので、その政治思想を捉えやすい。すなわち

① 習近平『擺脫貧困』福建人民出版社1992年（1988～1990年の演説等）

② 習近平『之江新語』浙江人民出版社2007年（2000～2007年の演説等）

③ 習近平『幹在实处走在前列』中央党校出版社2006年（2002～2006年の演説等）

④ 『習近平談治國理政』外文出版社2014年（2012～2014.6年の演説等）、の4冊である。

まず、習近平の地位が確立しつつある姿を④『習近平談治國理政』<sup>10</sup>で確認してみよう。この習近平講演集は、2012年の発言12篇、2013年の発言45篇、2014年1～6月の発言23篇、計80篇からなる。索引を開くと、毛沢東は18回、鄧小平は29回、江沢民は7回、胡錦濤は8回登場する。毛沢東思想は6回、鄧小平理論は17回、江沢民の「三つの代表」は17回である。

「プチ毛沢東」としての習近平の面目は、たとえば「大衆路線」を13回語る場所に現れる。鄧小平時代、江沢民時代、胡錦濤時代にはこのキーワードはほとんど死語扱いで、代わって知識分子の英語力、数学力やIT技術者の先進的知識に光が当てられていた。科学技術を重視する点では、清華大学卒・習近平も前任の総書記たちと同じだが、彼が「反腐敗」のスローガンで虎退治に邁進するとき、その支えは大衆の支持であり、これを大衆路線と呼びながら推

進し、大衆の喝采を得ている。

「反腐敗」や「虎・ハエ」のキーワードで習近平講話を調べて見ると、初出は、2013年1月22日「中央紀律検査委の第2次全体会議の講話」である。そのタイトルは「権力を制度のオりに閉じ込める」と題され、「たとえ誰であらうと、職務がとれだけ高かろうと、党の紀律と国の法律を犯しさえすれば、必ず厳しく取り調べ処罰される」と語った。「これが決してただの空談ではないことを[私＝習近平]は、全党、全社会に表明している。厳しく党を治めるため、処罰は決して緩めてはいけない。『虎』（大物）も『ハエ』（小物）も一緒にたたき、指導幹部の紀律違反・法律違反案件を断固として厳しく取り締まるだけでなく、大衆の身の回りの不正の風潮や腐敗行為も着実に取り除かなければならない。党の紀律、国の法律の前に例外はないことを堅持し、それが誰の身に及ぼうとも、徹底的に調べ、決して見逃してはならない」<sup>11</sup>と強調した。

傍点を付した「職務がとれだけ高かろうと」の一句がキーワードになる。これまでは政治局常務委員級以上の高官は「刑ハ大夫ニ上ラズ」の慣行からして訴追されることはない広く見られてきたことを踏まえて、高位高官でも「党の紀律、国の法律の前に例外はない」と宣言した。これは習近平が党大会でトップに昇格して2カ月後のことであり、虎退治の盟友・王岐山は、この習近平指示に基づいて、調査に着手していた。

習近平の虎退治2回目の発言は、2013年4月19日「政治局第5回グループ学習会の談話」である。習近平はここで戦国時代中後期の商鞅と法家学派の学説をまとめた『商君書・修権』から「商鞅の変法」の必要性を説いたキーワードを引用した。

習近平の3回目の発言は、2014年1月14日、中央紀律検査委の第3次全体会議の講話である。「腐敗分子に対しては、見つけ次第断固取り調べ、処分する。早い段階、軽い段階で押さえ、病気なら早急に治療し、問題を見つけたら直ちに処理する。腫れ物をそのまま放置して、命にかかわる重病になってはいけない」と語った後で、習近平は解放後に初代上海市長を務めた陳毅[元外相]の言葉を引用する。「[金

10 邦訳『習近平、国政運営を語る』2014年10月、北京、外文出版社。

11 邦訳 432 ページ。

銭に]手を伸ばしてはならず、手を伸ばせば必ず捕まる」という道理を幹部一人一人に銘記させなければならぬ」。これは『陳毅詩詞選集』<sup>12</sup>からの引用だ。習近平も一時期上海市書記を務めたが、上海市を解放して初代市長を務めた陳毅元帥の言葉を引用しているのは、太子党の面目躍如だ。

もう一つの引用は、「善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯を探るが如くす」という『論語・季氏篇』の言葉である。「善を見れば、とても達成できないかもしれぬと謙虚に努力するとともに、不善を見れば、あたかも熱湯に触れたかのように、即座に離れる」態度をもって「不善を憎むべし」の意である。習近平はこのような言葉で中央紀律検査委員たちを激励し、腐敗摘発を呼びかけた。これらの一連の行動は、大衆からの支持を狙うものであるとともに、習近平の敵陣営を破壊し、直ちに自らの政治的基盤を強化する役割をもつ。

II-8. 習近平語録、その2

次に㊦習近平『幹在实处走在前列』というタイトルは、「現場で実務をこなし、大衆の前に立って歩く」、の意である。この本は、習近平の浙江省書記時代（2002年、副書記、2003-07年、書記）の演説等からなる。この本から文革期のキーワードを拾うと、次のごとくである。

腐敗	50回	目次、見出し等を含む、「腐敗」という二文字の総数
（腐敗現象	9回	以下は「腐敗」の内訳。
（予防腐敗システム	8回	
（腐敗分子	6回	
（腐敗問題	2回	
（反腐敗闘争	2回	
人民に奉仕する	19回	
毛沢東同志	13回	
大衆路線	8回	
毛沢東思想	8回	これらの3語は、ネガティブな文脈で文革をとらえたもの。
文化大革命	3回	
10年動乱	2回	

大民主 1回

これらの語彙調べから、「人民に奉仕する」「大衆路線」の立場から、「腐敗現象」や「腐敗分子」を批判する習近平のスタンスを読み取ることができよう。反腐敗のスローガンで、政敵を打倒することは、そのまま習近平政権を固めることになるのは明らかだ。

III. 習近平虎退治をどう読むか

III-1. 「慶親王 = 曾慶紅批判」

江沢民の「執政10年、院政10年」期に中国では、途方もない汚職が蔓延し、習近平は「虎もハエもたたく」汚職追放作戦に就任直後から取り組んだ。その皮切りに選ばれた教材が、なんとフランス革命前夜のエピソードであった。19世紀フランスの政治学者トクヴィルが『旧体制と大革命』という著書で、革命前夜のフランスを描いた一文を示す。「この政府がこれだけ侵略的であり専制的であったにもかかわらず、最も微小な犯行や軽微な批判でも極度な不安に陥ってしまう」「人々の拜金的な欲望を刺激してはそれを挫折させ、恰も相反する二つの方向から自らの破滅を促している」。

この本は習近平指導部のキーパーソンである李克強首相と汚職追放に取り組む紀律検査委員会書記王岐山が愛読し、周辺に薦めていると報じられたとき、現代中国の独裁権力の腐敗ぶりは承知していたから、やはり「革命前夜のフランス」か、腐敗退治を怠るならば、中国の独裁政権が危ういとする警告と理解した。同時に、愛読書推薦の担い手がナンバー2の李克強とナンバー6の王岐山である事実に私は特に着目していた。それはマスコミでは、太子党と共青团との権力闘争が語られすぎて、「李克強首相の地位が王岐山によって奪われる」と見るような軽薄ウォッチャーの間違いを修正する動きと解したからだ。

その後、2年余、現在に至るも、「太子党が共青团を脅かす」、「李克強の地位を習近平が脅かす」、「王岐山が脅かす」と見る誤解を繰り返す自称専門家が後

12 北京、人民文学出版社、1977年。

## 第15期～第18期 中国共産党中央政治局常務委員会委員 一覧

## 第15期 1997～2002年



## 第16期 2002～2007年



## 第17期 2007～2012年



## 第18期 2012～2017年



を絶たない。習近平はあたかも「プチ毛沢東」のように権力を固め、独裁権力をもつに至ったが、それによって「李克強や王岐山の地位が弱くなった」のではない。習近平を支える「助手としての李克強や王岐山の地位」には何ら変化がない。この「党高政低」という構図は、前述のように、毛沢東対周恩来、江沢民対朱鎔基、胡錦濤対温家宝、すべてに共通する「党務優先システム」にほかならない。ちなみに王岐山は党務として政法委員会書記を務め、政務として国務院監察部を指揮しているが、その任務は習近平の指揮のもとで、虎退治作戦を「実行する任務」であり、実践面で、監察部の行政機構を駆使して、摘発チームを派遣し、汚職調査を展開している。これは基本的に紀律検査委という党機構を通じて行う「政務」レベルへの橋渡し活動なのだ。

江沢民の指導体制は、1989年の天安門事件を契機としてスタートしつつ、一切の政治改革を封印し

市場経済への道を歩み、世界第2の経済大国になったことは誰もが知る。その裏面は「汚職と腐敗」の高度成長期でもあった。日本の列島改造期にも似た不動産開発ブームと証券市場の急速な発展が不公正取引の温床と化した（たとえば「原始株」操作等々）。開発の許可に関わる贈収賄の弊害が解放軍所有の不動産を管理する兵站部門におよび、ひいては大将・中將・少將のポストまで「買官売官」の対象となる始末だ。一説では将官級の買官疑惑者は200名にのぼるというからすさまじい。

政治改革を封印したまま「荒っぽい資本主義」（ワイルド・キャピタリズム）を加速した結果が汚職の高度成長という苦い結果をもたらしたことになる。極め付きは軍の制服組のトップ徐才厚副主席が「買官売官」の嫌疑で党から除名され、徐才厚の情実人事提案に「副署」してきたもう一人の副主席郭伯雄の責任も追及されるに至ったことだ。長男郭正鋼少將（浙江省軍区副政治委員）が全人代の開会前夜の2015年3月2日北京に護送され取り調べ中だ。江沢民によって47軍軍長から副主席のトップまで引き上げられた父・郭伯雄の罪状固めの一環とみられる。江沢民軍事委員会主席を支えた二人の副主席が揃って「買官売官」がらみで失脚とは、空前の事態ではないか。江沢民の提起した「三つの代表」を薄めるために「四つの全面」を前面に押し出す必要性はここにある。

現状を放置するならば、民心は中国共産党や党の指揮する軍から離れ、党による統治の崩壊は必至である。すなわちフランス大革命に類似した中国大革命の再到来だ。習近平の虎退治はそのような危機意識に基づいて着手された。習近平が否応なしに、虎退治に乗り出した直接的契機は、2012年の党大会前夜の人事抗争にあると見てよい。

習近平は、胡錦濤、温家宝の力を借りて、まず自らの政治的ライバルと目されていた薄熙来（重慶市書記、政治局委員）の処分成功した。ついで2014年7月初めに徐才厚（2007～12年軍事委員会副

主席、政治局委員)を処分し、7月末に周永康(2007～12年政治局常務委員)を処分した。そして昨年12月には令計画(2007～12年中共中央弁公庁主任)を「組織調査」処分に付した。ここで「組織調査」とは、中央紀律検査委員会が犯罪の嫌疑で「処分含みの調査」を決定した意である。薄熙来事件が摘発された当時、一部の中国メディアは、「新四人組」として、「薄熙来、徐才厚、周永康、令計画の結託」を指摘していたが、結果的にはその見通しを裏付けた形になる。「新四人組」とは、習近平が中国共産党のトップ指導者に就任する際に、これを妨害し、あるいは「棚上げ」を図った勢力を指す。

江沢民時代に、「経済改革優先、政治改革停止」の政経股裂き戦略を強行した結果、市場経済への移行過程の間隙に乗じた腐敗が生まれ、全面的な腐敗に発展した。ここで鄧小平時代と江沢民時代との大きな違いを一つ挙げておく。鄧小平時代には、太子党の子女は中央委員レベル止まりであり、経済活動のみしか許されなかった。しかし江沢民時代には、この制約が解かれ、太子党の政治局入りを容認した。これによって政治権力と経済権力、そして軍事権力との癒着、結託の構造が定着し、中国版の産軍複合体(ミリタリー・インダストリー・コンプレックス)がビルトインされた。

では、誰が大泥棒周永康を権力の座に引き入れたのか。曾慶紅前常務委員兼国家副主席である。図15～18期常務委員一覧を見ると、一目瞭然である。2002年秋、引退する江沢民は後継者として曾慶紅

を常務委員に昇格させるとともに、常務委員ポストを二つ増やした。7名から9名に増やすことによって、江沢民派を5名(曾慶紅、呉邦国、賈慶林、黄菊、李長春)に増やした。常務委員会の多数派をつくるために恣意的な配置を行った。5年後の2007年秋、引退する曾慶紅が自らの後継者として常務委員に選んだのは周永康である。しかもその担当分野としては、汚職摘発を握りつぶす権能をもつ中央政法委員会および中央紀律検査委員会であった。汚職を摘発すべき機能をもつ党務の系統が汚職もみ消しを旨とする腐敗官僚に牛耳られた結果、汚職は摘発を免れ、「汚職が汚職を呼ぶ」構造となる。こうして空前の腐敗が横行した。

さてこのような体制を放置したならば、フランス大革命の二の舞、すなわち中国共産党の支配体制の崩壊だ。どこから手をつけるか。核心は、周永康の子分たちからなる中央政法委員会を解体し、再編することだ。手順としては、常務委員を2名減員して7名体制とし、政法委員会を常務委員級からひとまわずヒラの政治局レベルに格下げする。そのうえで、新たな18期常務委員のなかから王岐山を抜擢して、再編・中央紀律検査委員会を通じて、中央政法委員会を再編し、警察・検察・裁判の司法系統を再編する。このような中央機構の特別な再編措置を通じて王岐山は、ようやく周永康系統の妨害を排して紀律検査委を通じて虎退治を進めることができた。

全人代前夜の2月25日紀律検査委のホームページに登場した「影射史学」エッセイは、歴史に借りた

13 習驍は名中紀委幹部、擔任中紀委駐國家鐵路局紀檢組副組長、監察局局長、擁有法學博士學位的他愛好歷史，擅長寫作。2012年黨的十八大召開後，他每月在《中國紀檢監察報》上發表一篇談古論今的文章，逐漸擁有了一批鐵杆粉絲。報社編輯常常收到讀者詢問，“下一篇什麼時候登？”習驍所寫的每個歷史故事、塑造的每個官吏形象，幾乎都引發了人們的關注，甚至猜測和對號入座。究其原因，正像參考消息網刊登的一篇評論分析的：“(從書中人物)聯想到當今受到查處的腐敗官員，個個又何嘗不是身居官位，卻拋棄了清正廉潔、勤政為民的本性，雖然看似日日忙碌，可其忙碌的不是為國為民，而是官場鑽營，力謀私利，置民生於不顧，貪污腐敗，腐化享樂。”問習驍有些人讀完故事就去“對號入座”，會不會給他帶來麻煩，他很坦然：“這說明大家在思考能夠引發對應，也是因為習驍自己本身也是在用筆“對號入座”；中央提出八項規定後，他創作了《作風建設與歷史周期律》，講述觸發癸酉之變的清朝官場作風問題；大老虎紛紛落馬，他以《高級幹部的低級錯誤》作為回應；今年全國“兩會”期間，王岐山參加全國人大會議山西代表團審議時，談到了場方式腐敗問題，他便推出此前寫過的文章《張之洞借錢》，用故事講述“讓權力從市場走開”。“看起來是在說故事，其實我是在寫時評。”習驍這樣自我定位。<http://fanfu.people.com.cn/BIG5/n/2015/0413/c64371-26833340-3.html>

14 裸官是指配偶和子女均在境外定居或加入外国国籍的公职人员。裸官一詞主要用於中華人民共和國公務員。近年香港部分高官，其配偶或子女都已取得歐美護照或居留權，都屬於裸官。裸官現象由來已久，據中華人民共和國商務部統計：截至2004年，中華人民共和國共有4000余名官員外逃。2009年11月17日深圳市頒布實施的《關於加強黨政正職監督的暫行規定》第六條明確指出：“凡配偶和子女非因工作需要均在國(境)外定居或加入外國國籍或者取得國(境)外永久居留權的公職人員不得擔任黨政正職和重要部門的班子成員。”裸官與腐敗的關係、外逃貪官中有相當一部分是裸官，其腐敗路徑通常是：通過貪污受賄聚斂財產——配偶子女在國(境)外定居或加入外國國籍——配偶子女為裸官繼續轉移財產——裸官擇機出逃並滯留國(境)外。《美國之音》稱據中國共產黨中央組織部調查，幾年來中共高干家屬，高干子弟移民海外，包括香港和澳門在內一共108萬人，移民出去的高干子弟家屬生活奢侈，用現金買房、買豪宅、買跑車根本不用貸款。涉案金額較大的裸官、1994年11月，黑龍江省石油公司原總經理劉佐卿，非法向國外轉移資金達1億元之多，然後攜帶一家8口逃到美國。2005年1月，中國銀行黑龍江河松街支行行長高山潛逃加拿大。涉案金額超過10億元人民幣。2006年6月，福建省工商局原局長周金伙，逃往美國。涉案金額高達億元。2012年4月，原中共鳳城市委書記王國強攜帶2億元人民幣私自離境逃到美國。<http://zh.wikipedia.org/zh/%E8%A3%B8%E5%AE%98>

時評として、波乱を呼んだ。筆者は中央紀律検査委の幹部・習驊<sup>13</sup>である。エッセイのタイトルは「大清"裸官"<sup>14</sup>慶親王的作風問題」（2015年02月25日）である。慶親王（1838～1917）は、西太后（慈禧）のもとで、首席軍機大臣や内閣総理大臣を務めた政治家だが、「宴会大好き、麻雀大好き」人間であった。「中級幹部の段芝貴が銀10万両を贈呈したところ、ただちに黒竜江代理巡撫のポストを与えた」。英国『タイムズ』の有名記者モリソンによると、「慶親王の預金は712.5万ポンドの巨額に上る。ちなみに作家ジェーン・エアが家庭教師で得た年収は30ポンドにすぎず、ダーウィンが購入した豪邸も2000ポンドだから、慶親王の預金の大きさが分かる」。慶親王はとりわけ英国系の香港上海銀行が好みで、国内の民族金融期間には一銭も預けなかった。もし百年後に生まれていたら、慶親王は「裸官」といわれたであろう（周知のように、裸官とは、中国には資産や家族を置かず、すぐに海外逃亡可能にしている状態の高官を指す）。モリソンは少しも気兼ねなくこう書いた。「慶親王のやることは、まるで国家を生き埋めにするようなものだ。ナベの湯が沸騰しているのに、魚自身はそれに気づかない」（まさに日本流なら「茹で蛙」の図柄か）。それゆえ「慶親王のケースは、平和時にリスクを思う（居安思危）格好の教訓ではないか」。

影射史学とは、古に仮託して現代の政治を風刺し、人物を揶揄するものだ。文化大革命期の有名な例としては「批林批孔」がある。「批林」が林彪批判であることは誰にも分かる。「批孔」は孔子を批判す

る意だが、ここでは「周恩来を孔子になぞらえて」批判したもので、これは江青夫人ら四人組が行ったキャンペーンの一つである。この種の影射史学は、鄧小平時代になると文化大革命の忌まわしい記憶とともに忘れられた。そのような、文化大革命期を思わせるあてこすりが、王岐山の率いるホームページに掲げられたので、大騒ぎになった。「慶親王」とは誰をあてこするものか。「慶」の文字から、賈慶林、曾慶紅説が現れ、いなこれは裸官批判の一般論にすぎまいといった論評が続いた。

「裸官慶親王」ショック これは、明らかに曾慶紅<sup>15</sup>を風刺したものと読むべきだ。キーワードは外資銀行への巨額の預金である。モリソンは英『タイムズ』の特派員として北京に駐在したが、国籍はオーストラリア人<sup>16</sup>である。外国銀行に預けた巨額の預金と、オーストラリアから曾慶紅が息子曾偉<sup>17</sup>をキャンベラに移住させたポイントを容易に想起させる。曾慶紅は1939年生まれだから、「もし1838年の百年後に生まれたら」という年齢もほぼ重なる。

このあたりが巷間語られている最中に、米国紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』がD.ジャンボ（ジョージワシントン大学教授）の「中国絶縁声明」を発表した<sup>18</sup>。曰く、1.中国のエリートは片足を中国から出して、外交への逃亡を準備している。2.「九号文件」に端的に示されるような政治的引き締めが習近平の統治下で深まっているが、これは政権崩壊に対処するためだ。3.体制に忠誠心をもつ者でさえも、党活動はやるふりをするのみ。4.腐敗蔓延が蔓延している。5.経済発展が減速し、行き詰まって

15 曾庆红现“出事”苗头。2015年4月2日,中纪委网站发布消息,中国海洋石油总公司原党组成员、副总经理吴振芳涉嫌严重违纪,目前正接受组织调查。公开资料显示,1980年至1993年,吴任中国海洋石油南海西部工程公司经理。此后直至2013年4月退休,吴振芳仕途未出中海油。4月5日,海外知名学者何清涟在美国之音撰文称,曾庆红与吴振芳有同事之谊;1983年至1984年曾庆红任中海油总公司联络部副经理,石油部外事局副局长,南黄海石油公司党委书记。何清涟认为曾庆红之子曾伟在石油系统内很可能得到吴的关照,吴在此时“接受组织调查”,估计调查内容与曾家有关。4月13日有海外媒体称,清明节期间,一位每年固定帮曾庆红家族扫墓的江西亲戚,今年却突然接到曾家通知,叮嘱其不要去,称不方便接待。今年中共两会后,外界纷纷传曾庆红已被立案调查。<http://www.secretchina.com/news/15/04/17/573734.html#sthash.UH1FaVos.duf>

16 モリソンおよび慶親王については、矢吹晋「朝河貫一とGEモリソン」『モリソンパンフレットの世界』東洋文庫、2012年を参照されたい。

17 曾庆红危险了：鲁能集团私有化取消、2014-03-05 来源：《财经》记者乔晓会李其彦。<http://yydg.paowang.net/2014-03-05/11802.html>

18 The Coming Chinese Crackup, WSJ, 2015.3.6

19 First, China's economic elites have one foot out the door, and they are ready to flee en masse if the system really begins to crumble. Second, Mr. Xi has greatly intensified the political repression that has blanketed China since 2009. Third, even many regime loyalists are just going through the motions. Fourth, the corruption that riddles the party-state and the military also pervades Chinese society as a whole. Finally, China's economy is stuck in a series of systemic traps from which there is no easy exit. WSJ, 2015.3.6

いる<sup>19</sup>。

これらの5カ条を挙げて、かつて旧ソ連が解体したように、中国共産党の支配も崩壊が近づいている。これらの条件を指摘して「明日にも中国が崩壊する」と語りつづけるオオカミ少年は、枚挙にいとまのないほど大勢いるから、この種の理由づけ自体は珍しくない。ただし、彼のエッセイには大きな特徴が一つある。それは曾慶紅のリーダーシップに対して最高度の評価を行う。その「曾慶紅が処分され、影響力を失うとすれば、もはや中国に希望はない」と分析した。元祖太子党として既得権益を擁護する人々の利益代表を中国発展の担い手とする評価は、どうみても唐突な内容であり、人々を驚かせるに十分であった。

文革期の太子党

氏名	生年	1966年当時の年齢と高校、大学	父親	父の地位
曾慶紅	1939	27歳北京101中、北京工業学院	曾山	内務部長
鄧樸方	1944	22歳、北京第13中、北京大学物理	鄧小平	副総理
俞正声	1945	21歳、北京81中、ハルビン軍事工程学院	黄敬	第一機械工業部長
陳元	1945	21歳、北京4中、清華大学	陳雲	党副主席
王岐山	1948	18歳、北京35中高中2年の時、すなわち69年1月に延安県康坪生産大隊に下放し、姚依林の娘姚明珊と知り合う。西北大学73-76年。子女なし。	姚依林	副総理(岳父)
薄熙来	1949	17歳北京4中高中1年級、北京大学	薄一波	副総理
李源潮	1950	16歳、上海、華東師範大学	李幹成	上海副市長
劉源	1951	15歳北京4中初中2年級、北京師範大学	劉少奇	国家主席
習近平	1953	13歳、1968年北京81初中3年、25中学に転校後に延川県に下放、清華大学	習仲勳	副総理

ジャンボの宗旨替えは何を意味するのか。近年しばしば訪中し、中国の要人や研究者等と交流し、彼らのいう *Responsible Stakeholder-ism* 作りのために努力してきたジャンボに何が起こったのか。それが「裸官慶親王」ショックにほかならない。私自身は腐敗の根源が江沢民にあることをだいたい前から見抜いていた<sup>20</sup>ので、江沢民の大番頭役・曾慶紅の失脚に驚くことはなく、むしろ拍手を送りたい気分だ。ところがジャンボは、曾慶紅一派に望みをつなぎ、米中対話のカウンターパートの黒幕と認識していたという事実には、少なからず驚いた。ジャンボと曾慶紅との交流がどのようなものであったかは知らないが、「米中戦略・経済対話」<sup>21</sup>は数年続いており、しかも対話を止められない事情が双方にあるから、曾慶紅失脚に接して、あわてるのは政治分析家としては、未熟といわざるをえない。いわんや曾慶紅とのパイプ断絶をもって、中国全体の未来を語るの、軽率と評するほかはない。とはいえ、ジャンボの絶縁声明は反響が大きく、その後まもなく『ニョーク・タイムズ』(2015.3月15日号)がバックリールによるインタビューを掲げた<sup>22</sup>。

ここで重要なことは、ワシントンという政治都市では、政策作り優先ですべてが動いている事実だ。近年の米中対話の中心にあったジャンボの変心がワシントンの対中政策にどのような影響を与えるのか、ポスト・ジャンボの政策プランナーは誰なのか、注視しておく必要がある。曾慶紅処分はなるほど権力闘争には違いないが、権力を得た習近平が何をやるか、それが問題だ。習近平の反腐敗闘争は、

20 たとえば『激辛書評で知る中国の政治・経済の虚実』日経BP社、2007年第2章および『中共政権の爛熟腐敗』蒼蒼社、2014年、142～145ページ。

21 中美戦略と経済対話は中美双方就事关两国关系发展的战略性、长期性、全局性问题而进行的战略对话。2009年7月27日至7月28日，首轮中美战略与経済対話在華盛頓舉行，雙方深入地交換了意見，首轮對話取得了積極成果。2010年5月24日至5月25日，第二轮中美战略与経済対話在北京舉行。2011年5月9日，第三輪中美战略与経済対話舉行，中美軍方代表首次參加對話。2012年5月3日至4日，第四輪中美战略与経済対話在北京舉行，對話將圍繞三大經貿議題：促進強勁、可持續和平衡增長；拓展貿易和投資機遇；金融市場穩定和改革。2013年7月10日至11日，第五輪中美战略与経済対話在美国首都華盛頓舉行。中美战略与経済対話第五次反洗錢与反恐融資研討會2014年12月3日至5日在杭州召開，中美雙方就雙邊反洗錢監管合作忘錄、犯罪資產沒收及追回的国际合作、刑事司法合作、打击恐怖融資、新金融交易及支付方式 and 虚拟货币管理等进行交流。http://baike.baidu.com/link?url=-Mgo\_AHg3kjnd86f7s2RZh70yq08ciztenTnNIIsc7t1FYaW-8edH8c69MqsE-kGvKf14692sQHUTVOws4Kv7a

22 Shambaugh on the Risks to Chinese Communist Rule, NYT By Chris Buckley March 15, 2015.

23 花伝社、2012年。

24 中国経済が米国を抜いて世界一になる時、中国封じ込めに失敗した安倍ドクホーテ政権に未来はあるか——AIIB問題で世界の孤児となった日本、ちきゅう座 2015年4月6日、http://chikyuzu.net/archives/52164

権力を固めるための手段の側面をもつことは当然だが、権力闘争のための反腐敗ではない。浙江省書記時代から彼はこれに取り組もうとしていた。

ここで習近平と王岐山の年齢を見ると、習近平と比べて王岐山は5歳年上だ。処分された薄熙来は習近平より4歳年上、処分を待つ曾慶紅は、習近平よりも14歳年上である。習近平・王岐山 vs. 薄熙来、曾慶紅らの闘争は、太子党のいわば内ゲバである。習近平と軍の劉源、紀律検査委の王岐山らは、太子党のいわば正統派を自任しているように見える。この立場から太子党内の既得権益擁護層に対して、果敢な権力闘争を挑んで、これに勝利しつつあるのが現状と見てよいであろう。

## 終わりに

### ——「プチ鄧小平」としての習近平および全方位外交

さて、習近平の内政活動の基調を毛沢東に似せて描いたが、毛沢東時代と現代は、中国内外の環境は著しく異なる。中国の政治経済はグローバル経済の

なかに深くビルトインされている。それゆえ市場経済の発展を基軸として政策を進めることにならざるをえない。この文脈では、習近平は「プチ鄧小平」の役割を演じて、文革期のような鎖国政策にはもはや戻れない。私は旧著『チャイメリカ』<sup>23</sup>で詳論したが、米国の国債を保有する最大の債権国が中国であり、2015年3月現在1兆2610億ドルだ。ちなみに親米派の日本は1兆2269億ドルで、わずかに少ない。1年前には中国が日本より600億ドルも多かった。米中貿易は日米貿易の約2倍であり、米国から見た「日本の地位」に昔日の面影はない。中国国内の社会情勢も高度成長を経て大きく変わりつつある。内外の情勢が激変するなかで、習近平が毛沢東の作風を真似するだけでは、マンガになる。とりわけグローバル経済の潮流は、中国経済を深く包摂している。そこで鄧小平流の沿海地区発展戦略をグローバルに発展させた構想こそが「一带一路」という海陸シルクロード構想にほかならない<sup>24</sup>。

(やぶき・すすむ、横浜市立大学名誉教授)

## 討論会「毛沢東時代の民間記憶とその歴史的衝撃」報告(下)

土屋昌明

⑤ Sebastian Veg 氏の発表は、本文の冒頭で触れた楊穎慧・楊繼繩・閻連科らの作品を紹介する内容であった。このうち、楊穎慧の『夾辺溝記事』(2008年、広州：花城出版社)は、王兵監督の『無言歌』の原作である。楊繼繩は『炎黄春秋』の編集者で、反右派闘争・大飢饉・文化大革命などの被害者に対する多くのインタビュー記事を書いている。その『墓碑：中國六十年代大饑荒紀實』(2008年)は、大飢饉のオーラル・ヒストリーにもとづきながら、現場に近い行政組織が作成した大量の档案資料を使って、それを裏付けたり統計的に示したりしている。多くの資料が本書での言及でしか見ることができず、楊繼繩の精力的な仕事と客観的な分析に驚かされる。閻連科は、小説『愉楽』が日本でも翻訳出版された(谷川毅訳、2014年、河出書房新社)。

これらの作品は、50年代の政治運動にまで遡り、中国という国家の発展がいかに人々の予想を裏切ってきたかを暴くとともに、この政体の本質に対する懐疑を提示している。こうした作品の手法は、オーラル・ヒストリーを中心としており、歴史と文学の境を超えている。このことは、いかにしてエリートの政治史に訣別を告げ、一般庶民の歴史をみずからの歴史叙述に編入していくか、という問題をつきつけている。そしてこの歴史において知識人は、本当に被害者だったのか。むしろ加害者あるいは共犯者ではなかったのか。また、オーラル・ヒストリーの限界をいかに超えるか、個人の経験の叙述から、いかにして歴史空間の問題を議論していくか、という問題もあるという。

⑥ Jean-Philippe Béja 氏の発表は、人民公社・大躍

進など、毛沢東の社会転換に対する抵抗運動をとりあげたもので、主として星火事件を話題とした。「星火」は、1960年1月に甘粛省天水の農村でガリ版印刷された地下出版物で、そこに書かれた諸論文には、大躍進と人民公社が招いた災難が分析・批判・記録されていた。この出版物が作られるにあたっては、反右派闘争で批判されて、農村で労働改造をさせられていた知識人たちと、現地の行政の共産党員が連絡し合っていた。彼らは、大飢饉による農民の餓死・壊滅を目の前にして、毛沢東の政策に反対する意見を交換する目的で印刷物を作った。しかしリーダー的な立場にあった張春元は、これを各地の共産党幹部に配布し、現場の状況を知らしめようと考えた。この考えが実行される前にメンバーは逮捕された。摘発された者は200名にのぼり、そのうち懲役になった者が40数名だったという。後にリーダー格の張春元と杜映華は死刑に処された。ヘジャ氏はこの事件について、自身も15年の刑期を終えて出所した譚蟬雪の『求索——蘭州大学「右派反革命集團案」記実』（香港天馬出版有限公司2010年2月）によって述べた。この事件は、現在に至るまで歴史上から抹殺されたままであり、胡傑監督のドキュメンタリー映画『尋找林昭的靈魂(林昭の魂を探して)』（1999～2005年に撮影）で紹介され、同じく『星火』で全面的にとりあげられた。ヘジャ氏も譚蟬雪本人に取材をしたようであった。彼が注目しているのは、事件当時の歴史的問題もさることながら、「過去を制御することは、未来を制御すること」という考えの下に、中国の人々が、記憶を否定する抑圧に抗して、歴史的事件をどう記憶していこうとしているかにあるようだった。

⑦Frank Dikötter 氏「静かなる革命」と⑧王愛和「文革における非政治的芸術・個人的経験・別種の主体」については、筆者が所用で中座したためノートがとれず、本稿で報告できない。

⑨Michel Bonnin 氏は、新疆の事例をもとに、知識青年の下郷運動が収束した事情について、公的な資料と民間の記憶の違いがなぜ生じるのかを検討した。つまり、その違いを調整していくという方法を軸にして、中国知識青年の歴史を描いていくことを

提案している。ボナン氏は、1968年から80年に亘る上山下郷運動を分析した『失落的一代』（中国大百科全書出版社、2010年）の著者であり、この分野の第一人者である。本書はフランス語原著の中国語版だが、ボナン氏によれば、著者本人が中国語訳を逐一チェックしたとのことである。

⑩丁東氏は、自伝『精神的流浪』（北京：人民日報出版社、2012年）・『永遠的質疑』（重慶出版社、2013年）などで著名な文革研究者である。彼は文革受難者へのインタビューを数多く発表しており、その経験から、文革受難者へのオーラル・ヒストリーの性質を述べた。まず、歴史的な記載が残されていないとか、参考にすることができないという状況下で、史料はオーラル・ヒストリーしか存在しないという場合が少なくないこと。歴史的な記載や档案資料などが存在する場合でも、オーラル・ヒストリーは生き生きとした、詳細な叙述を得ることが往々にして可能であること。特に、行政の役人を経験していた人物のオーラル・ヒストリーは、文字記録よりオーラルの方が詳細な事情を語り得ること。またインタビューを収集するには、官と民、エリート層と草の根層の区別をしなければならないこと、などが述べられた。

⑪呉迪氏は、啓之というペンネームで大量の著述を出している。特に、『毛澤東時代の人民電影（1949～1966年）』（秀威資訊科技、2010年）では、当時の映画関係者へのインタビューにもとづいており、そうしたインタビューの経験が語られた。

以上、この会議の所見を簡単に紹介した。使用言語はフランス語と英語と中国語で、一人の通訳が逐次通訳をした。この通訳者の言語能力は驚くべきだったが、いかんせん、簡略な言葉が説明的にならざるを得ず、わかりにくいのは避けがたい。また、文革の特殊な用語は事前の素養がないと翻訳不可能で、しばしば通訳が会場の専門家と話し合う場面があった。文革を外国語で議論する困難さを痛感させられた。

文革の出版物や映像は大陸で抑圧されているが、  
(2ページに続く)